

緑

窓

第12号



青山学院中等部緑窓会会報

2003年（平成15年）5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 今村和久

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話/FAX 03-3498-5387

E-mail: ryokusoukai@ceres.ocn.ne.jp

緑窓会の魅力ある活動の継続を願って

中等部緑窓会会長 今村和久（十期）



昨年六月の「緑窓会の日」より緑窓会の会長職を規約に基づき白井茂氏（六期）より引継ぎました。一九五〇年（昭和二十五年）に一期生の卒業と同時に発足した緑窓会も多くの中等部卒業生の方々は勿論のこと、学校法人青山学院、及び中等部教職員の方々の御努力と御理解により、今年は五十四年目を迎えることができました。また「緑窓会の日」としての行事を始めてから今年の六月七日で十四回目の開催となります。毎年六月初め（当初は五月初めでした）の土曜日には多くの卒業生、現役の中等部生、並びに御友人達を含めた関係者の方々が渋谷の青山学院に集まり、「原点・祝祭・継続」の Motto のもとにしばしの時をもつことが慣習化されてきております。このために、母校愛と卒業生の集いを大切に感じ、かつ青山学院校友会の活動の一助としての認識を持つ各期の幹事及び役員の方々が手弁当にて学校法人が与えてくれた事務室に集まり、地道に作業を進めておられることに對して、強く感謝の念を抱いております。世界を取り巻く諸状況、その中の日本は勿論のこと、卒業生の皆様方のお仕事や生活の環境、そして子供たちの教育環境などにおきまして大きな変革が進行しております。そのような中で、青山学

院中等部にて育まれた私達は、非常に恵まれた教育を受けさせて戴いたことを喜ぶべきではないでしょうか。卒業後の経過は各位それぞれ千差万別でありましょうが、振り返ってみる機会も多くあつてよいのではないかと思います。そこで、緑窓会は青山学院の教育方針「原点」を見据えた「祝祭」を開催し、知的な力を発揮する魅力的な場を「継続」的に設けていくことが大きな役割である事を再確認したいと思っております。しかし、継続には力も必要です。現状の諸変化に対応していくことも必要でしょう。二〇〇二年度末になつてようやく緑窓会室（ウェスレーホール三階）に電子メールを開設しました。ブライバシーの保護には相応の対応をさせて戴いておりますので、ややもすると面倒な面があるかもしれません。また二〇〇三年度は名簿管理のためのパソコンのソフト、ハードの再整備を行う予定です。原点をしっかりと理解していただく卒業生の方々のより多い御参加を熱望しております。毎週火曜日に事務局が開いておりますのでいつでもお待ちしております。中等部から高等部以外に進まれた方々も是非参加されることを期待しております。十五歳から今年で六十九歳になろうとしている卒業生の方々がお互いを知って、誇りをもって御一緒に緑窓会そして青山学院高中部（中等部）さらには青山学院全体に貢献していきたいと念願しております。

第十四回「緑窓会の日」 二〇〇三年六月七日（土）

実行委員長 崎田克己（十四期）

六月の初めには「緑窓会の日」があり、それを楽しんで頂けるようにその年の幹事を務める年次が工夫をこらしています。これを立案された歴代幹事の方々はさぞ頭を悩まされた事と思います。

この責任重大な幹事を今年は十四期卒業の私達が担当させて頂きます。

昨年十三期の方々が同期の梨園の名優を募り、なんと歌舞伎を青学講堂に持ち込んだ上に、稀にみる華やかな催しとし、卒業生以外の出席者からも大好評を博する会とされたので、私達十四期としては「何をするのか？」がますます頭の痛い問題となつてしまいました。と言っても賢い十四期のこと、気持ちを新たに十四

期らしくアカデミックに遊ぶことにしました。幸いにも新装なったガウチャーメモリアルホールには素晴らしいマティス社のパイプオルガンが昨年入っています。軀が共鳴しそうなこの荘嚴な調べを聴き、礼拝の雰囲気を出しながら説教を聴き、そして昔の真面目さに戻ったところで「自然」に目を向ける講演を楽しく聴いて頂けたらと企画しました。勿論すべて同期生の手作りで。私達が在学中は如何にアカデミックであつたかが自然とお分かり頂けると思っています。（或いはこの同期生三人だけのこともかも知れませんが……）ぜひ皆さんがお越し頂き楽しんで下さい。卒業生以外の方も大歓迎です。

2003年度 『緑窓会の日』 開催のご案内



ガウチャーメモリアルホール

記

日時／2003年6月7日(土) 13:30~17:30

内容／1. 礼拝 13:30~14:10 〈ガウチャーメモリアルホール〉

説教者 野村祐之 (14期)

奏楽者 真藤純一 (17期)

2. 講演 14:20~15:20 〈ガウチャーメモリアルホール〉

講演者 小野有五 (14期)

3. コンサート 15:30~16:30 〈ガウチャーメモリアルホール〉

演奏者 清瀬雅子 (14期)

4. 茶話会 16:45~17:30 〈短大食堂〉

「緑窓会の日」ご報告

十三期実行委員長 小池 操 (増田)

代表幹事 中川光子 (杉山)

代表幹事 塩坂暁子 (永井)

新装なった「ガウチャーメモリアルチャペル」に453名の出席者を迎え、青山学院長深町先生の説教により、礼拝は荘厳に行われました。

第二部の歌舞伎公演「三人吉三巴白浪」は十三期の堀越夏雄氏(市川團十郎)の総合プロデュースにより、花道を設け、本格的な舞台を設営、主演三人市川團十郎丈・中村梅玉丈(河村順之)・尾上松助丈(井上新也)に松助丈の長男松也君を加え、脇役俳優、尾上菊五郎劇団音楽部の唄・三味線鳴物で歌舞伎座での公演と同じ舞台をお見せする事が出来ました。ご招待の先生方、切符を買って下さった緑窓会の会員の皆様、初等部から大学生まで450名の学生を加え1787名という記録的な観客動員を得る事ができました。続いての「歌舞伎ワークショップ」では、観客の方の参加などで、大いに盛り上がりました。主演三人の方の多忙なスケジ



ユールの合間をぬつての全面協力と出演料寄付というボランティアによって、この公演が行われたものである事を付け加えて頂きます。
アイビーホール青学会館では、300名の皆様の参加で楽しく、思ひ出話等に花が咲いた懇親会でした。一年間にわたり、緑窓会の役員の皆様と共に、準備を進めてまいりましたが、天気にも恵まれ、大盛況のうちに、無事終了できました。皆様方にお礼申し上げます。

野村祐之(のむらゆうし)さん

のこと

十四期 岡田佳子(古畑)

まずは本人による略歴の紹介・・・
「初等部より青山学院。大学時代にはインド・ネパールを放浪。中等部聖書科講師を経て世界教会協議会(スイス・ジュネーブ)勤務。その後イエール大学神学大学院で学び、「DESERT WISDOM」を出版。その頃米国で初のホスピスができた芸術担当ボランティアを体験。帰国後、末期肝硬変で倒れ米国で肝臓移植手術を受け十四年目になる。現在、青山学院大、同女子短大他で教壇に立つ。」・・・
尚、付け加えますと、奥様は中等部英語科のカリン・ジョンソン先生で、ご長女祐香さんは初等部三年生在学中。
私と野村君(と呼ばせて!)とは初等部入学以来、中等部を卒業するまでの九年間連続同じクラスでした。私は三十五年間主婦生活で、二人の人生には大層違いがありますが、現在の共通点が一つあります。それは私も長女夫婦も孫も駒場エデン教会の教会員ですが、野村先生ご一家も一緒にいらっしやることです。

自然のメッセージをきく

十四期 小野有五

この十年ほど、僕は北海道で、いまだ絶滅に瀕しているシマフクロウという日本最大のフクロウや、「幻の魚」といわれるイトウ、春の森を埋めて咲くカタクリを救う仕事などをしてきました。シマフクロウはアイヌ民族の大事な神様でもあります。

「銀の滴ふるふるまはりに 金の滴ふるふるまはりに」

という詩句で有名な『アイヌ神謡集』の最初のユカラは、この「シマフクロウの神がうたった歌」なのです。この一冊を僕たちに残し、わずか十九歳で亡くなったアイヌの女性、知里幸恵(ちり・ゆきえ)さんの、今年は生誕百年にあたっています。二十世紀に生きた日本の女性を十人あげるとしたら、皆様は誰をあげましょうか。幸恵さんは、必ずその一人に入るべき人だと思っています。この本のおかげで、僕たちはアイヌ民族の偉大な文化を知ることができただけでなく、動物たちと人間がコトバを交わすことができた時代がいこのあいだまでであったことを知ることができます。

植物たちは、動物や昆虫にいつもメッ

セージを送っています。自然もまた僕たちにさまざまな言葉で語りかけています。ただそれを聴きとるには、僕たちのほうが、心をひらき、いつも耳をすましていなければなりません。緑窓会のひととき、懐かしい青山で、森や川や、シマフクロウの語りかけるメッセージにちよつと耳を傾けてみませんか。

北大大学院地球環境科学研究科教授
『自然をみつめる物語』(全四巻・岩波書店)でサンケイ児童出版文化賞、地形学研究にもとづく北海道の自然保護活動で二〇〇二年に第一回の沼田眞賞を受賞。



「ガウチャーのパイプオルガン」

(清瀬さんに聞く)

(インタビュー) 十四期 浅川由利子

ガウチャー・ホルのオルガンは日本製ですか？

清瀬

スイスのマティス社のものです。

スイスと言えば、清瀬さんはオルガニストをしていらっしやいましたね。

清瀬

はい、ドイツ語圏で外国人として初めてピザを取得して一九七七八二年教会庁とラングナオ教会(国教会)のオルガニストをしていました。

清瀬

欧州各地でも、演奏活動をしていらっしやいましたね。

ウィーン国立音楽大学の学生当時から、三十余年欧州で演奏しています。スイスで私のレコードも発売されました。多くの良い楽器に出会いましたがマティス社の楽器は暖かい響きのする優秀なもので多くの人々に好まれています。

清瀬

そのマティス社をガウチャーに入れたと言う事は奇遇ですね。現在オルガニストをしている日本キリスト教団渋谷教会のオルガンもその一つです。そのオルガンでの演奏を楽しみにしています。

ラグビー部



ラグビー部の想い出

ラグビーは野蛮人がやる紳士のスポーツと言われていますが、(ちなみにサッカーは紳士がやる野蛮なスポーツと言われている)我々中等部のラグーにとつてこれほど複雑で知的的なスポーツは他には無かつたのではないでしょうか。何しろラグビーとは名前こそ知っているが、テレビで見たことも無いしただボールを持ってゴールに向かつて走り込めば良いんだと言われて入部した人が多かつた時代です。体が大きいからといってフォワードでスクラムを組むだけでなく何しろルールが厳しく、一切の交代も認められなかつたのですから、本当に紳士的で野蛮的に育つたと、今振り返つても思うほど危険であつた。であるからこそ、その時代が懐かしく、そして一体感を生んだ時代でもあつたのだでしょう。何しろハーフタイムの二十分の長かつたこと！

ノ、サイドの笛が鳴るたびに喜びが沸くのも、あの何処に行くか判らない楕円形のボールを追った青春があつたからでしょう。今でも現在の越塩OB会長を囲んで毎回の中等部合宿に参加しているのは、この八期から十五期そして二十五期の宿南君からの十年位がまさしくオールドボ



中等部のラグビー部は1期の渡辺、池田、柏、才茂さんたちがスタートさせて、九期の細田、森本、上野、金井、石橋、東峰、小山、十期の今村、上住、杉井、澤幡、藤森君たちが入ってやっと全学年全員が揃って試合が組めるようになって出来たクラブです。青山学院といえば初等部からラグビーをやっており、当時は女性の部員もいたくらいで、メンバーの半数は初等部から来ていました。青山学院といえばラグビー、ラグビーが強いんだね、と言われる基礎を作ったのがこの時代です。

ラグビー部から出た人達：マイク真

・マイク真木、市川團十郎、高橋克典、岩淵健輔（イギリ
スでプロとして活
躍中）、
その他早
大ラグビ
ー部のキ
ャプテン
を勤めた
山本君、
明大／社
会人で活

この頃の中学校ラグビーの公式試合といえは5中学でした。途からは麻布中学が加わって6中学となった。

青山学院中等部、慶応中等部、慶応普通部、成城学園中学、成蹊学園中学で成っており、特に青学は強かった。何しろ初等部からやっている連中が半分を占めていたのであるから、この連携は他校ではできなかったことです。今でも慶応中等部の人たちに、「お前らは強かったな」と言わしめておられます。特にバックスの細田、石橋、金井、今村、真木、越堀、S.Hの西川、フォワードの上野、森本、杉井、平岩は他校にも見られない強い体とスピードをもつて本当にラグビーを楽しんだものです。



ラグビー部の顧問は武田賢三先生で、昭和四十六年にリタイアされるまでのなんと十六年間をラグビー一筋に応援



をして戴き、その後今の石出道雄先生に引き継がれ現在に至っております。その間は監督の松元さん、コーチの太田さん（現在の青山学院大学ラグビー部OB会長）、佐野さんといった方々が面倒をみてくれました。

この八期から十五期までが初期の中等部最強チームを作った黄金時代で、そのまま高等部に行き高校全国大会予選東京都決勝に進出、秩父宮で当時の優勝チームの城北高との試合では敗戦で涙をのんだとはいえ僅差であつたほど強力なチームでした。

菅平での合宿

中等部の合宿は菅平の丸山荘にて行われ、いつも大学から田中さんをはじめ大勢の先輩がコーチに来てくれましたが、今の練習のシャドー（一人一人後ろについてマン・ツー・マンで教え

る）ではなく、遠くから指導される乱暴なものでした。その頃はビデオも無くテレビも始まったばかりでしたから、他の試合を見るか実戦しかなく専門誌も無い状況で、先輩の指導だけが全てでしたから、論理よりも力と精神力でプレーするほうが多かったですね。現在では、諸先輩の指導のもとに体力だけにこだわらない青山学院のラグビーが浸透しており、これらが結果として昨年（二〇〇二年）秋の全国高校ラグビー大会東京都決勝で全国的な強豪チームである國學院久我山高と秩父宮ラグビー場で戦うことが出来るまでになりました。現在まで伝統が維持されていることを嬉しく思います。

オールブラックス中等部をコーチ

昭和三十二年ニュージーランドのオールブラックスが初来日、秩父宮ラグビー場で試合をし、その後青山学院中等部の練習場に来て、初等部、中等部を指導してくれたのも記念すべき行事でした。



そのときの片腕しかないブッチャー選手が印象的でした。何しろガリバーに

くような感じで教えてもらったのでした。

関東大会が始まったのもこの頃です。最後の決勝戦では宇都宮で、又5中学対抗では秩父宮ラグビー場で連続試合をやりました。

その頃のグラウンドは裏の門を入ってから校舎につながるコンクリートの道の左側にあ



りました。その隣に高等部のグラウンドがあり今よりはずっと恵まれていましたが、石ころが多く、膝は何時も傷だらけで、野球部との日程割りも大変でした。又、毎日ブリッジ、腹筋、腕立て、タックル、精神力を養うように水を飲まない、きついことをやればどんなに強くなると言われていた非科学的な時代でした。従って体は鍛えられただけでも本当につらい練習で、試合に行くのも戦場に行くみたいで、戦略と言うよりも何しろ体を鍛える時代でした。今みたいに楽しんでやるというよりは、その頃は皆がトライするチャ

ンスがいつぱいあったからこそ必死になったのでしよう。

昭和三十二年頃のラグビーの道具といえは本物の六枚皮で合わせたボールで、練習が終わると皆で唾をかけて滑らかに磨いたものです。又ヘッドギヤー、肩アテも無く、ぶつかる度に傷だらけになったり、モールやタックルではよく頭をぶつけて救急車で病院に担ぎ込まれたものです。又スパイクも皮を重ねて張り付け、ナイフで尖らしてスパイクを作ったもので、モールの中で踏まれるとそれは痛いもので大変でした。何でラグビーが楽しいのかって、あの楕円形のどっちへ転がって行くかわからないボールを毎日追っかけて、泥だらけになってセービングをし、ボールめがけて三年間走ってみれば、自然に皆のチームワークが出来、苦勞をした後の喉の渇きと体がくたくたになつて何の欲もなく一緒に走ったりスクラムを組んだりした仲間達が、人生を最も語りあえる青春時代のことを、後になつても子供たち、友達に熱く語るこ

とが出来る場だったからでしょう。

これからも、今まで以上に青山学院のラグビーを応援して戴きたく、本誌を借りて切望します。

代表筆 杉井要一郎（十期）

同期会 便り

一期 同期会

一期 井上文子

中等部・高等部一期同期会は、二年ごとに開かれています。今回は平成十四年十二月一日(日)午後二時からアイビーホール青学会館「ミルトス」で開催されました。

中等部の矢部衛・中村喜美子先生、高等部の綿引静枝・斉藤賢・女屋信夫



先生をお迎えし、一期生八十一名が集まりました。当日御出席予定でした儘田信一先生は、怪我のため御出席いただけなくなった事は残念でした。

この二年の間に永眠された先生方、友人達の御霊に参加者全員で祈りを捧げ、会に出席出来た幸に感謝をし、懇親会に入りました。

私達も七十歳に近くなりましたが、御出席いただいた先生方は私達との年齢差を感じない程お元氣な御様子でした。

学院理事として御活躍の綿引先生より二〇〇三年開学する相模原新キャンパスの御説明もあり、一同新キャンパス開学により、学院の益々の発展と活躍を祈る気持ちでいっぱいになりました。

久し振りに再会した友人との会話は尽きる事なく、半世紀も前の中高時代そのものでした。

春秋に開かれている同期のゴルフ会も近々五十回となり、参加のお誘いもありました。

今回出席出来なかった方々の健康と、次回再会出来ますようお願いの健康を祈り会を閉めました。

九期 同期会

九期 松野富久子

私たちもついに人生の節目「還暦」を迎えることになりました。

六十歳の「お祝い」を二〇〇二年十月四日ホテルニューオータニ、シリウスで開催。

武田先生
斉藤先生
大槻先生
伊藤先生
をお招き
して計八
十六名が
参加、皆
さんお元
氣な姿で



ご出席され大変楽しいひと時を過ごしました。

真木さんの開会の挨拶で始まり、武田先生のご発声で乾杯、ひき続き皆さんの近況報告、そのあとはそれぞれ久し振りの懐かしい「懇談会」になりました。

おいしいお料理をいただきながら、にぎやかな話し声や楽しい笑顔がこちらこちらと広がりあつという間の二時

間三十分でした。

その後、二次会、三次会へと進みいつまでも別れがたく又の再会を約束して散会となりました。

人生は素晴らしい友との出会いでも輝くものだと思ふづく感じた記念すべき一日でした。

二十七期 同期会

二十七期 幹事

十一月十六日、創立記念日のこの日に八年ぶりに二十七期同期会を開きました。担任の先生を始め、お世話になった先生方にご出席頂き、約百名の楽しい会となりました。



奥っちゃんが

退任されました！

「雑感」

奥津光佑

文化祭などで生徒からのアンケートを採られる質問の一つに子供の頃「将来どんな仕事に就きたかったか？」がある。想起こそすのだがどうも定かではないが熱中していたのが野球しかなかったので「プロ野球選手」と書くことにしてきた。「教師」と決めたのは、中学を過ぎてからのことであつた。子供は大きな夢を抱いて自分の将来に向けて生きようと志す。当然ながら沢山の大きな夢には、自己実現を図らねばならない。しかし大人になるためにはその自己実現の道の一つ一つ削らなければならぬ。能力の関係もあるのだがどうもこの方法を探らねば安定感が得られないからである。大いなる夢も、またそれを実現すべき能力も持ち合わせなかった私ですら知らず知らず

この削ぐ作業を行ってきたものと思う。教師生活三十八年この道を選んだことに對する迷いは塵もなかった。皆に守られて、本当に楽しかった。感謝の念で一杯である。「退職後はどうするの？」と聞かれる。小坂先生が辞められる時には、これからが人生の再出発と言っておられたことを思い出す。全く敬服に価する言葉である。楽しさに、あつという間に過ぎた三十八年間。これからは、削りとってきた自己実現の道は何であつたのかを思いおこし、その一つでも拾っていく作業をしてみたいと思っている。これからは皆様とも気張らずにゆつたりとお話が出来るものと思っている。永いこと応援ありがとうございます。



「三期会」を

開催します。

三期の皆さん、お元気ですか。
「高等部・中等部合同三期会」をお約束どおり二年振りに開催します。
奮ってご参加のほど、お願いいたします。
今から「予定」に組み込みいただき、前回（一〇一名）以上に出席くださることを期待しています。

記

一、開催日時

二〇〇三年一〇月
二十五日（土曜日）
十二時三十分開宴予定

一、会場

青学会館

詳細は追って連絡します。

代表幹事

北村吉一
山崎正夫

28期のつどい

日時：平成15年6月7日（土）
18:00～20:00

場所：東京全日空ホテル36階「ペガサス」
港区赤坂1-12-33
Phone 03-3505-1111

会費：8,000円

幹事 石崎耕二・神林浩子（石田）

24期卒業30周年記念同期会

『We all still remain sweet 15!!
みんなの笑顔にまた会える…』

日時：2003年6月7日（土）
午後6時～9時

場所：青学会館 2F ミルトス

会費：10,000円

お問合せ：鈴木孝至（実行委員長）

TEL：03-3427-0018

携帯：090-4602-1655

E-mail：takashis@sp.catv.ne.jp

中等部便り

★二〇〇三年度人事

部長	大 村 修 文
副部長	布 施 英 俊
教 頭	千 輝 克 忠
教務委員長	山 本 節 子
指導委員長	朝 野 圭 三
教研委員長	山 本 与 志 春
一年学年主任	有 賀 実 男
二年学年主任	金 子 琴 江
三年学年主任	平 田 肇

★異 動

退 任 奥津光佑先生(数学)
一九六五年より数学科教師として勤められていましたが、今年三月をもって退任されることになりました。この間、野球部顧問として、また担任として多くの卒業生に大きな思い出を残されました。

松延素男先生(国語)

一九八九年より国語科教師として高等部から来られましたが、今年四月より再び高等部へ戻られることになりました。

講師の先生方

篠原大先生(社会)・飯島昌志先生(数学)・伊藤恭子先生(美術)・関口尚美先生(英語)・大野千栄子先生(英語)・堀一人先生(英語)

★行 事

次の行事が変更になりました。

- *廃 止 冬季スキー学校(十一月)
- *新 設 韓国ホームステイ(三月)
- 二年宿泊行事(五月)

事務局便り

毎週火曜日、午前十一時から午後四時まで(忙しい時は六時になる時もあります)仕事をしています。昔のままの古いウエスレーホールの三階です。ちよつと薄暗い階段をトコトコと登って息が切れる頃三階に着きます。すぐ右側が緑窓会の事務局になっています。狭い部屋の中で、電話の応対、コンピュータでの維持会費の入力、住所メンテナンス、会計事務、その他雑事に追われながら、ほっと一息つくとすぐ十二時を過ぎてしまいます。そしてみんなの手弁当を仲良く分け合って、楽しい昼食タイムです。そして午後から仕事に戻り、充実した時間が流れてアツという間の日です。現在、三期の大先輩から二十五期の同窓生が事務局の大きな力になっています。火曜日、月に一度だけでも出られる方がいらつしやいましたら是非お手伝い下さい。来室をお待ちしています。



2002(平成14)年度収支計算書

自 2002(平成14)年 4月1日
至 2003(平成15)年 3月31日

青山学院中等部緑窓会

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費収入		会費収入	
2002年度入会金		2002年度入会金	822,000
54期274名		維持会費	2,252,000
雑収入		諸収入	
預金利息	1,043	預金利息	1,043
寄付収入	40,000	寄付収入	40,000
雑収入	7,500	雑収入	7,500
(名簿収入)			
本年度支出合計	3,678,502	本年度収入合計	3,122,543
当年度収支差額	-555,959	前年度繰越収支差額	7,991,881
次年度繰越収支差額	7,435,922		

緑窓会会計報告

会長 久肇美
副会長 今飯中
事務 村野
会計 岩玉

監事 木平 村森 夫均
事務 美子 晴京 永尾